



日本規格協会主催 標準化と品質管理 全国大会（通称 SQ 大会）が開催されました。例年、工業標準化推進月間事業として 10 月に開催されますが、本年は 800 名を超える参加者の参加を頂きました。参加頂きました方、大変ありがとうございました。一部ではありますが、受講した講演を紹介致します。

日時：2018 年 10 月 3 日（水） 10:00～16:30（地方大会は 10/19～30 にかけて開催）

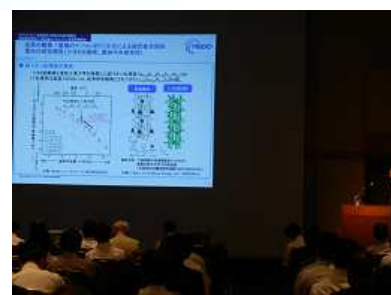
場所：都市センターホテル（千代田区 平河町） 5 会場

主催：日本規格協会(JSA) 協力：産総研, NEDO

参加：800 名 超

標準 3 NEDO における車載用蓄電池の技術開発及び標準化の取組み：NEDO 宮本 潤一 様

NEDO 宮本様より、車載用蓄電池の技術開発及び標準化の取組みに関し、ご講演頂いた。環境・エネルギー政策の一環として、EV・PHEV 市場の急速普及に伴い蓄電池世界市場は急速に伸びている。Li イオン電池(LIB)規格に関しては、IEC は LIB セル試験法(日本主導)、ISO が電池パック試験法(独自主導)と分かれているとのこと。LIB 性能は年々進化しており、セルの安全性・寿命評価する試験法を規格化することは重要となっている。LIB としては電解質・電極活性物質が固体である全固体 LIB の技術開発も進められており、開発成果の標準化が期待される。



【LIB 先端技術:宮本様】

品質(モノ2) IoT と AI と MT システム ～ロケットと自律診断・地震予測を例として～:アングルライ(株) 手島 昌一 様

アングルライ(株) 手島様より、IoT と AI と MT システムに関するご講演を頂いた。品質統計学の一手法である MT(マハラビス・タグチ)法を用い、正常状態データを基に故障検知予測を行う。時系列データを基にした正確・迅速な判断が求められるが、この判断に AI(深層学習)が深く関与している。ロケット打上げ時の自律診断での微妙なパターン相違を解析・数値化する手法として JAXA に採用されたとのこと。MT 法と深層学習を組み合わせることにより、地震予測等 科学的予測が懷疑されている最先端 IoT 分野に対して応用が期待されている。



【MT 法と深層学習:手島様】

品質(モノ1) 品質不祥事の再発防止に向けて～オールジャパン品質マネジメント活動～:日本品質管理学会 小原 好一 様

日本品質管理学会 小原会長より、品質不祥事の再発防止に向けてと題したご講演を頂いた。日本製品の品質・信頼性は「品質立国日本」の地位を確立してきたが、近年 免振データ偽装、エアバック欠陥らの品質不祥事はその地位を失墜させている。このような品質事故に対しては対処方法だけでなく、何故データ改ざん、クレーム隠しを起こそうとしたのかというヒトの本質に踏み込む必要がある。品質経営を今一度見直し、小集団活動、自働化・自工程完結等の PDCA 活動を推進・再認識することの重要性を訴えた。



【品質経営のPDCA:小原様】



また、JSA が支援している新市場創造型標準化制度活用事例として2つの講演がセットで行われました。

標準4 放熱性シート材料の熱拡散率の測定方法に関する JIS 化：(株)ベテル 羽鳥 仁人 様

(株)ベテル 羽鳥様より、放熱性シートの熱拡散率測定方法 JIS 化に関するご講演を頂いた。自社開発したサーモグラフィ(サーモウェーブアナライザ)の特長を活かすため、面内方向熱拡散率測定方法の規格化に取り組んだ。厚み方向の測定方法に関してはレーザーフラッシュ法を始め様々な規格が存在するが、面内方向の測定に関しては今回規格化した周期加熱放射測温法が適している。この JIS 化にあたっては JSA のアドバイスもあり、新市場標準化制度を利用し、2018 年冬の取得を目指し、現在審議中である。将来的には ISO 規格取得も視野に入れている。【司会との質疑：羽鳥様】



標準5 生きることは挑戦すること～ニッチ製品標準化が世界展開の始まり～：(株)田中電気研究所 田中敏文 様

(株)田中電気研究所 田中代表取締役より、排ガス中のダスト濃度の連続測定方法に関するご講演を頂いた。排気ガス中のダスト濃度測定に関しては、日本では古い大気汚染防止法の要求から月1回の手分析での届出が義務付けられているが、欧米アジア各国では連続データ取得が法令・規格化されている。ダスト濃度自動計測計の海外進出にあたり、日本でも標準化が必要と感じ、新市場創造型標準化制度を利用し、JIS 化を実現。当初は、競合他社から不利になると反発を受けたが、性能評価方法の標準化に方針変更。JIS を強力な営業ツールとして活用。【性能評価法比較：田中様】



標準化と品質管理大会(SQ大会)も定着化してきていますが、シェアリングエコノミー、健康(病院)、観光等のサービス品質を対象とした講演、また AI, Big Data, IoT といった新規技術を活用し未来現象の予測を行うサービスやコンサルティングに関する講演等 興味深いプログラムが満載であったと思います。

今後も、品質管理含めた標準化に関する情報提供を行っていく予定です。またお会いしましょう。

